



黒田 三佳(クロダ ミカ)

人材育成アカデミーローズレーン代表、里山ソムリエ(山形県)

昭和41年1月生まれ。大学卒業後日本航空にて国際線客室乗務員に。一度の旅で出会った山形のことを忘れられず家族と移住。里山に関する論文をフィールドワークを通じて執筆し、修士号を取得。経験を生かし人材育成おもてなしなどのセミナー、キャリア支援、山形大学などで非常勤講師、米沢市教育委員を務める。またコミュニティビジネス実践として里山で塾を主宰。5年前に新規就農し、畑と1100坪の原野を譲り受けて、里山ソムリエとしてラジオやFBで発信。



1



2



3



4



5



6

アクティブシニアの「アクティブ」は自ら進んで何かをやること

黒田三佳と申します。上杉の城下町米沢から参りました。生まれも育ちも東京です。家族でデンマークで暮らしたこともありました。

今日は米沢織の着物を着ております。なぜここまで米沢を愛したのかわかりませんが、きっかけは、たった1回の訪問でした。

私は夫も娘も連れて行きましたが、その後もう一人連れていきました。それは父です。父は、60代後半に移住しました。その前には母を癌でなくしました。

3人姉妹だったんですが、お父さんは、お姉ちゃんのところ暮らしの方が幸せじゃないか、ということになり、移住しました。

よく娘さんはどんな実業家なのかと言われることがあります。そうではなくて、車1台ほどで庭付きの家を父に買うことができました。

移住後の父は、私の家の隣の一軒家に一人で住み、私を全く必要としていません。料理も洗濯も全部自分でしています。畑で野菜を作り、野菜ソムリエの方に料理を習い、若い方達とランチをしたり、幸せな暮らしをしています。

本日は、若い頃活躍していた方がここに呼ばれているとありましたが、私は、若い頃、特別に活躍していません。資産家でもありません。あまり深く考えないで移住しました。旅行に行ったときにとても雰囲気良かった、それが本当に理由です。

どんなに統計的にいい場所でも、美味しいものがいっぱいあるといっても、隣に意地悪な人がいたらつまらなくなってしまうことはあります。私は、統計は気にしないで自分の感覚で動きます。夫がそれについてきてくれたのも良かったのかもしれない。

仕事も就職活動をしたわけではありません。私が暮らす里山は、直江兼続公、上杉景勝公が米沢に来た時に、30万石に減じられて、城下に住み切れなかった下級武士が住んでいた場所です。

仕事も周りの人が作ってくれました。里山ソムリエという名前で、里山の暮らしの素晴らしさを発信しています。エコでサステナブルな里山の暮らしを再発見し、いろんなところに伝えています。

父の移住に際しては、買ったものは全然ありません。車1台分で買った家をみんなでリフォームしました。料理も畑で作った野菜などを使い、楽しんでいます。

写真にあるように、夫は剣道していたのが役に立って休日は薪を割ってくれます。お互いに認め合い、褒め合い、励まし合いが大切です。田舎暮らしだとお金がかかりません。

一移住する際に苦労したことは何ですか。東京にあった住宅等の資産はどうしましたか。

財産についてはほとんどなかったので問題なかったです。

一番最初は、里山でたまたま売りに出ている80坪くらいの場所を買いましたが、近所の方には狭いと言われました。

全く親戚も友達もいなかったけれど、お節介をしてくださる人が多くて、大変お世話になりました。とはいえ、常識感が違って、まちで何か共同作業するとき、スコップを持って来いというときに、大きいものではなく、小さいもの(移植ごて)を持って行ってしまい、笑われたこともあります。

それから、屋根の雪下ろしをするときに、東京生まれの東京育ちなので、屋根に乗るのが怖くて、ヘルメットや、反射板のついたベストを買って、命綱などを付けていったら、みんなはラフなトレーニングウェアでした。しかも飛び降りても雪で大丈夫なほど積もっていました。

人と人の距離感も、個人的には、いい塩梅でちょうどよかったです。

一移住後、どんな経験をしましたか。

CCRCのまちづくりの話が出ていますが、山形の田舎の小さな集落で、私はコミュニティの再生をしようとしているのかもしれない、そう感じました。

私も東京で生まれ育って、大家族で育ちましたが、幼い頃に経験して忘れかけていたことが山形にはありました。

すぐに挨拶してきてくれたり、何かあったら声をかけてくれたり、東京で失われていった、周りとの関係が希薄になっていたものが、東北の田舎にはありました。

ちなみに、いきなり田舎(里山)に住んだわけではなく、最初は米沢の中心部のアパートに住んでいましたが、そこは私が求めていたのとは少々違っていました。近所は、ほとんどが転勤族の方々でした。里山に行き、これが求めていたものだと思います、引越しました。

一移住に向いている人、向いていない人はどんな人ですか。

誰でも大丈夫だし、誰でもダメだと思います。自分次第です。不便とか悪いものばかりを見つければダメです。夫婦で一緒に移住したとき、お互いに気分が下がってしまいます。

あとは、米沢弁で「がってしない人」、へこたれない人、楽しめる人が合っているかもしれないですね。

一移住してほしい人はどんな人ですか。

東北にはシニアの能力を活かすチャンスがいっぱいあります。根を張って生きてくれる人に移住してほしいですが中々多くありません。だから私もいろんな仕事をしています。だからこそチャンスがあります。東北はいろんな分野の方を求めています。そして、そこに根を張ってくれれば、回りがみんな応援してくれます。それは確かなことだと思います。

一これからやりたいことは何ですか。

歳をとった方々だけが住むのは不自然だと思います。多様性を持って、いろいろな人たちが、関わり合うのが自然です。小さい子、若いお母さん、おじいさんおばあさんが関わり合うこと。それが昔は自然な形でできていたのかもしれませんが、自然な形でできないといけないかもしれません。

やりたいことですが、今までも何かをやりたいと思ってきたことはないなので、自然体で生きていきたいです。

一最後に、黒田さんにとって、地方創生とアクティブシニアをかけるると何でしょうか。

地方創生とアクティブシニアをかけて「イノベーション」です。

アクティブシニアの「アクティブ」は自ら進んで何かをやるという意味だと思います。自ら進んで何かをやるという方々、そして、すでにいろいろな経験をして、それぞれの能力と感性がある方々、その能力と感性をかけてイノベーションを起こせる人。

イノベーションというのは、難しいことではなく、こんなやり方があったんだということ。やり方は自分たちで作っても構わない。

東北は、そうしたそれぞれの皆さんの培われた能力や感性で何か始めてくれる人、こんなやり方があったんだという方を待っています。